

## 📖 今月のおすすめ本 📖

『女王さまのワードローブーイギリス国民に愛された女王エリザベス2世の物語（改訂版）』

著者名 ゴールディング ジュリア/文、ヒンドレー ケイト/絵、前沢 明枝/訳  
出版者 B L 出版  
出版年 2022  
請求記号 726.6/コ

受け入れた本は改訂版で初版は昨年2月、その際題名は『女王さまのワードローブーイギリス国民に愛されつづける女王エリザベスの物語』と、逝去される前の6月在位70周年のプラチナジュビリーに合わせて出版されていたようです。ワードローブを切り口にエリザベス女王の公務や私生活について絵本形式で解説されており、60年代のケネディ米大統領夫人のジャクリーンのファッションやビートルズを引き合いに出し、その時代や自身の特徴・意思を加味した”自分らしさ”を反映したファッションに変容されていったか、その過程が描かれています。また、王位継承に男女の差をなくす法律にエリザベス女王が署名する等ジェンダー問題に関わるエピソードも書かれています。

### 現代の英国について関連図書

『ロイヤルスタイル英国王室ファッション史』【288.4933/ナ】  
中野 香織／著（2019）吉川弘文館

『舌を抜かれる女たち』【367.2/ヒ】  
メアリー・ピアード／著（2020）晶文社

『ワイルドサイドをほっつき歩け ハマータウンのおっさんたち』  
【302.33/7】ブレイディみかこ／著（2020）筑摩書房

『江戸のキャリアウーマン 奥女中の仕事・出世・老後』

著者名 柳谷 慶子／著  
出版者 吉川弘文館  
出版年 2023  
請求記号 210.5/ヤ

「奥女中」とは、江戸時代の藩邸奥や江戸城の大奥に仕えた女中の事です。江戸時代より以前の「奥女中」のような仕事は、平安時代でいうと禁裏や公家の奥向きにいた「女房」ですが、清少納言や紫式部が働いていたのが中宮の下、この「女房」としてでした。当時の教養ある女性のキャリアとしての働き口だったということになります。この本では、仙台藩伊達家の「奥」を例に、奥女中の就業規則や出世や老後についても書かれています。特に出世については様々な段階の説明があり「奥奉公出世双六」などの紹介もあるので、注目されるあこがれの職業だったのかもかもしれませんね。

## 女性の仕事について歴史的な図書

『女性官僚の歴史 古代女官から現代キャリアまで』【322.1/シ】  
総合女性史学会／編（2013）吉川弘文館

『近世史講義 女性の力を問いなおす』【210.5/キ】  
高埜 利彦／編（2020）筑摩書房

『「源氏物語」の時代を生きた女性たち』【367.2/7】  
服藤 早苗／著（2000）日本放送出版協会

『性差（ジェンダー）の日本史：企画展示』【210/シ】  
歴史民俗博物館振興会／編（2020）